

一読, 査読, 誤読, 功德

江口和洋  
(九大院・理・生物)

# 一読~~~~惨憺！

こんな原稿に出会います

- 論旨の展開が不明確で冗長
- 自身の研究の位置づけがなく、研究の意義が不明確
- 実験条件、方法の説明不足
- 誤りやあいまいさ

思い込み

情報の欠如

無知・無自覚

不慣れ

改善の余地がある

査読はこれらの問題点を指摘して改善の方向を示してくれる

そこで、今、問われる

# 査読はどうあるべきか

鳥学会和文誌の問題として考えてゆきます

# 大前提

- ☆ 学術論文の世界には、ローカルルールは無い。  
1軍, 2軍, Major League Baseball, 日本プロ野球の違いはない。  
—Global Standard
- ☆ 論文掲載になれば、世界の研究者の目にさらされる（たとえ、和文誌でも）。

そのために、

- ☆ 査読は学術誌の生命線を握る最重要なシステムであり、査読依頼は断るべきではないという認識が共有されている。

（「忙しい」は言い訳にならない！）

# さて、時代は変わる

## 査読者の選定

### ☆古き良き原稿郵送の時代

事前の了解が行われていた(少なくとも国内誌では)

### ☆電子査読システムの普及とグローバル化

ある日突然と(知らない雑誌からも)査読依頼はやってくる

さあ、どう対処すべきか

# 江口(2001)

## 「レフェリーの役割について」

(Parks(1998)が下敷き)

**査読依頼が来たら,**

- 自分は適当なレフェリーか**
- 利益の対立は自分の客観性への障害となるか**
- その原稿は自分の未発表の研究と重複しないか**

**査読を引き受けたら**

- 査読はどの程度行うべきか**
- レフェリーはどの程度「編集」すべきか**
- リジェクトも仕方ないような原稿に対して, レフェリーはどれだけ編集者を助けることができるか**

# 自分は適当なしフェリーか

理想的には、  
正当な理由以外では、辞退しない  
(和文誌での辞退率2割ほど)

- 1)超多忙
- 2)完全な分野違い
- 3)理解能力の範囲を越えている

アブストを一読したら、即座に辞退を通告  
必ず、候補を(できれば複数)指名する

人材不足の学会の編集者:

一人は専門家として、一人はより一般的側面からの査読を依頼する  
多少の分野違いは承知の上

- 利益の対立は自分の客観性への障害となるか
- その原稿は自分の未発表の研究と重複しないか

- ・関係の疎密，系統の遠近は辞退理由になる
- ・自身の研究と重複するものは即座に辞退  
(参考に送られてくる要旨で見当はつく)

しかし，狭い世界

- ・縁故があっても，辞退できないこともある
- ・編集者側の慎重な人選が必要



そこで、査読を引き受けた

**□査読はどの程度行うべきか**

**□レフェリーはどの程度「編集」すべきか**

## 査読の役割の一般的理解

1) 雑誌への掲載の可否を審査する.

2) 著者へ問題点を指摘して助言を行う.

## 査読システムについても多様な理解

1) 雑誌への掲載の可否を審査する.

新規性(独創性)

有用性(学界への寄与)

信頼性(原稿の完成度)

2) 著者へ問題点を指摘して助言を行う.

助言の程度が千差万別

学术论文とは認定される

指摘を受けること

- 1) データ(証拠)があるか？
- 2) 論理(主張, 結論)があるか？

- 3) 独創性(オリジナリティ)があるか？

どこまで強く求めるかは雑誌の性格による

## **Ecological Researchの例**

**採択率30%強 印刷待ちが増える  
さらに評価基準を厳しくとの方針**

- 1) 記載的論文, 仮説の明確でない論文はリジェクト**
- 2) データ, 論理が妥当なものであっても, 新規性, 独創性, 学会および学界への寄与程度が低いものはリジェクト**

# ハイスタンダード誌の査読者の態度

データ処理, 記述, 論理展開に不備のある論文  
問答無用にボツ

これらに問題は無くとも,

- 1) 記載的論文の却下
- 2) 仮説無き論文の軽視
- 3) 古いトピックは切り捨て  
と, こうなります.

**「材料」学会としては問題有り**

## 研究者としては

- ✓研究には情報が必要である
- ✓情報は学術誌から得られる
- ✓学術誌は情報を提供する論文を掲載すべきである
  
- ✓ポップな学術誌にこの役が果たせるか？
- ✓「材料」学会誌はその役を担う

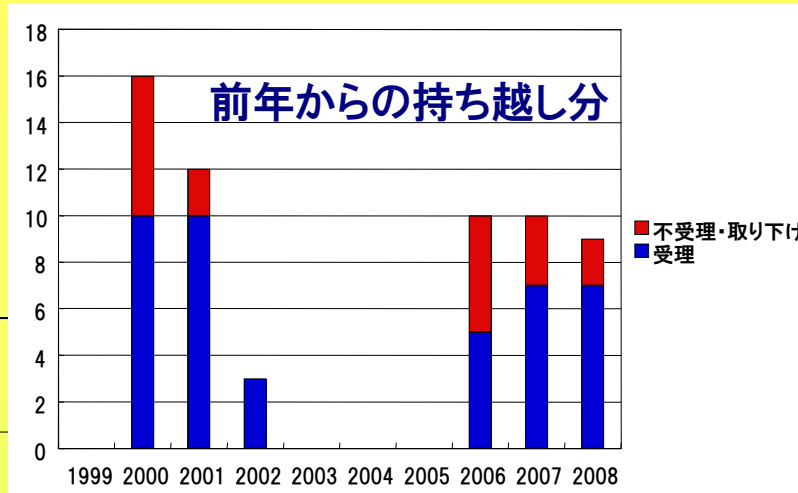
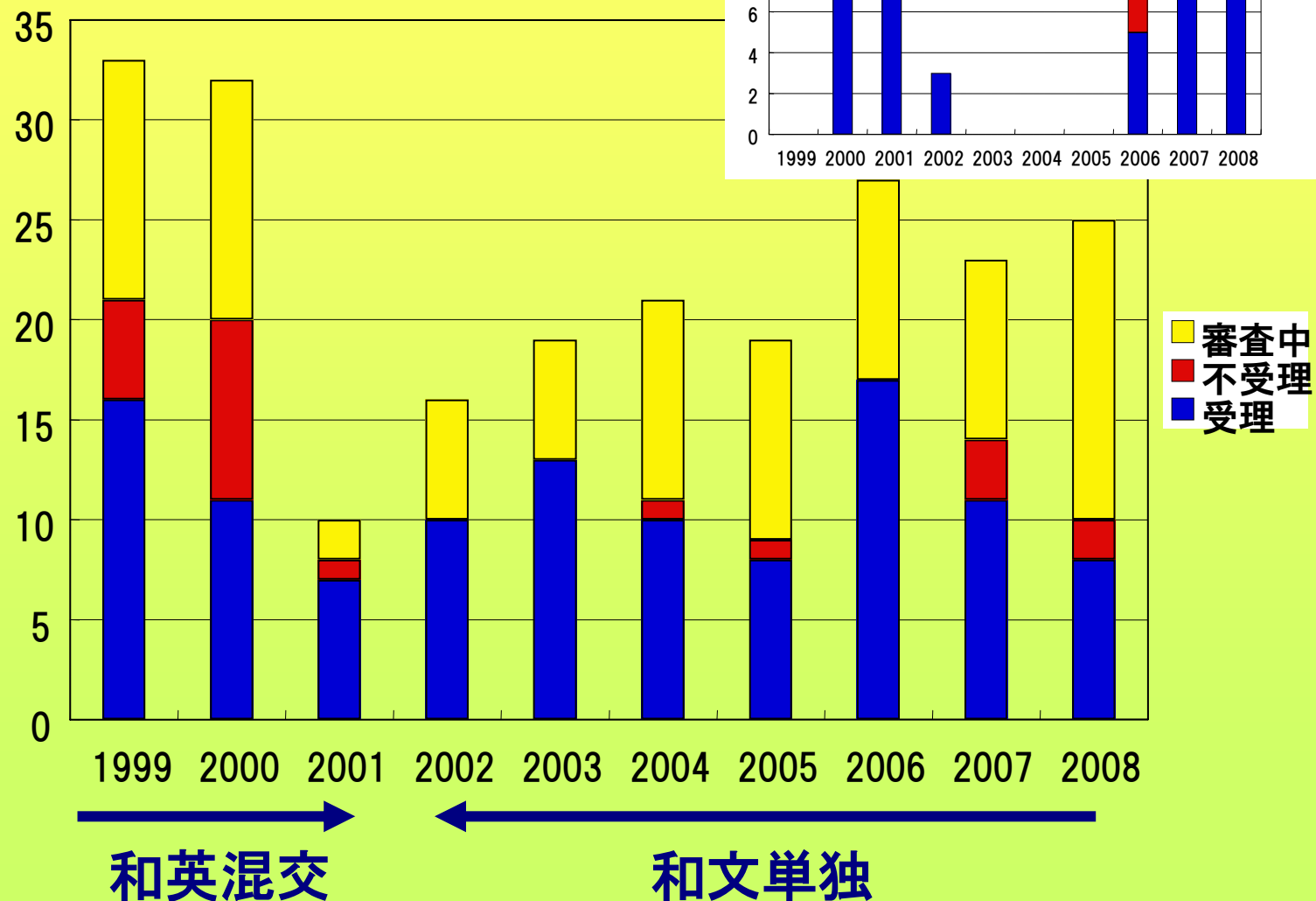


☆学会の性格により、  
学術誌に求められるものが異なる

★さらに、もう一つ、  
お家の事情

# 和文誌の編集状況

(編集委員会報告より)



**「良く整った論文は掲載に値する」**  
という考えに立ち、

もう一度考える

## **査読の役割の一般的理解**

1) 雑誌への掲載の可否を審査する。

2) 著者へ問題点を指摘して助言を行う。

**著者を手助けすべきか**

**手助けすべきでない**

**手助けすべきだ**

**□査読はどの程度行うべきか**

**□レフェリーはどの程度「編集」すべきか**

**掲載可否の判断と著者への助言を行う**

**最低限の査読者の務め**

- 1. 誤り, 問題点の指摘は具体的に指示, 理由を説明する**
- 2. 的確な助言を行う.**

**☆誤読もあるぞ！**

**具体的な指示を考えることで誤読も修正できる**

## 編集者を悩ませる査読者

- おざなりな数行のコメントしか返してこない。(編集者の判定材料にならない)
- 何でも言いたいことを全部書いてしまう。
  - ある意味, 親切だとも言える(ただし、表現は抑えて)
- 個人的見解の違いのレベルなのに, 自分の好みを押しつける。
- 「直さない限りアクセプトはあり得ない」などと判定に関することを断定的に書いてしまう。

- ・具体的な指摘を: 何が問題か?
  - 論理的な問題か、
  - データ自体の問題か、
  - どういう点が問題で、
  - どのように改善できるか

## 査読のポイント 信頼性のチェックに重点

1. 第三者として読んでみて理解可能かどうか。
2. 研究の位置づけがなされているか。
3. 十分な証拠に基づく考察をしているか。
4. 論理が一貫してわかりやすいか。
5. 新しさがあるか。

和文誌の場合

☆基礎データとして重要という視点も必要

「材料」学会では、  
データの重要性を尊重すること

**□リジェクトも仕方ないような原稿に対して、レフェリーはどれだけ編集者を助けることができるか**

**著者に対して問題点をはっきりと指摘する。**

問題原稿の欠陥はどこにある

1) 自身の研究の位置づけ

先行研究の精査, 評価が不十分

2) データ処理の不備

**欠陥の多い原稿ほどコメントすべき点は多い  
時間と忍耐が許す限りの多くのコメントを**



## 著者側の問題

### ☆査読に対する誤解

□査読コメントを論文に対する批判として読むことができず、自分への非難のように感じて熱くなってしまう。

### ☆コメントへの対応の仕方がわかっていない

□反論すべきは反論すればよいのに、「従わなくてはいけない」と思い、萎縮したり、逆に熱してしまう。(差読者の誤読、誤解もある！)

□査読コメントにどのように対応したらよいのかわかっていない。

□リプライ文書で「コメントに従った」としながら、原稿がそうになっていなかったり、コメントを無視する。

□リプライ文中で具体的に修正箇所を示さない。(査読者、編集者が当該箇所を探すのに苦労する)

# 著者側の態度

著者はレフェリーのコメントを真剣に検討すべきである

コメント多いほど改訂のヒントを与えられている

もう一度4つの欠陥がないか考えよう

- 論旨の展開が不明確で冗長
- 自身の研究の位置づけがなく、研究の意義が不明確
- 実験条件、方法の説明不足
- 誤りやあいまいさ

和文誌の場合、論文相談室が利用できる

ムダに長い査読期間は学術誌の信用を落とす

最近の一般の基準は21日以内

1ヶ月以上は論外

**査読者は**

**査読した原稿は即座に送り返すこと**

電子査読なら速い

最後に

## 査読者の功德というと...

1. 自分の**研究能力**の向上にはならない  
自分の能力の範囲で判断しているから当然の結果  
むしろ, 査読を受ける方が向上する
2. 自分の**教育手法**の向上にはなる  
欠陥を見つけ出す能力は磨かれる  
自身の欠陥を認識するには至らない

(あくまで私個人の経験からの印象)

亮